

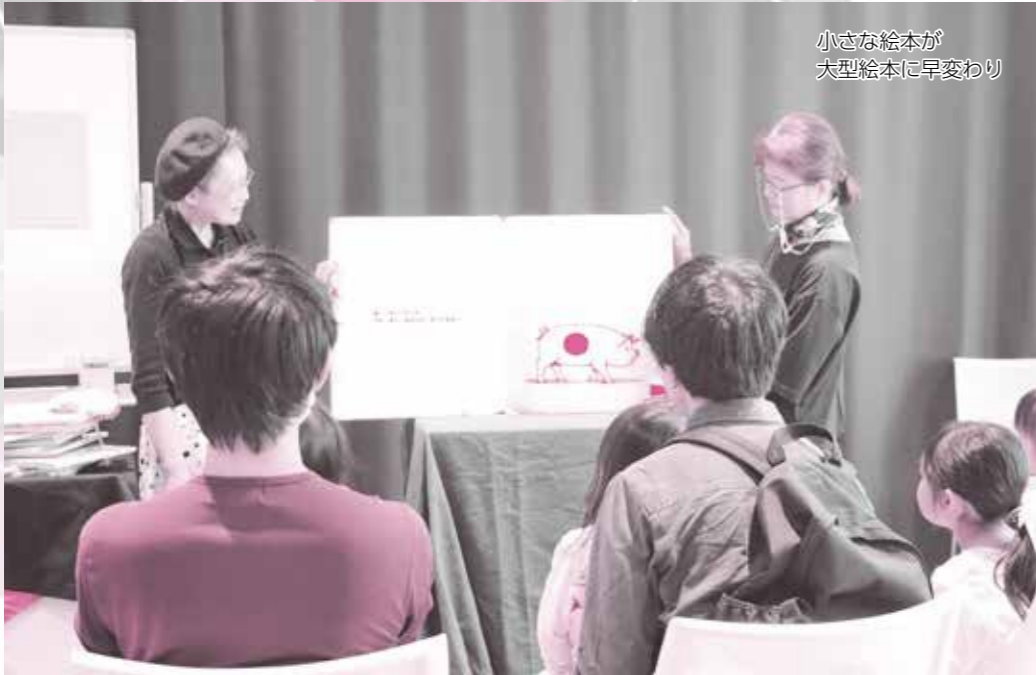
# 心の種を万の言葉に乗せて読む、おはなし



佐藤志摩子さん



松本富美子さん



小さな絵本が  
大型絵本に早変わり



手遊びや小道具で  
子どもたちの興味を  
ひきつけ飽きさせない工夫

読み聞かせやおはなしのボランティア活動をしている「言の葉の森」は、5月に市立図書館で「おはなし会」を開きました。館内放送を聞いて、赤ちゃんから小学生の子どもと保護者、高齢者まで、幅広い年代の人たちが会場に足を運びました。

子どもが楽しめる手遊びや小道具を用意して「おはなし会」が始まります。  
 「わらべうたえほん ととけっこう よがあげた」(わらべうた絵本) (こばやしえみこ案 ましませつ こ絵 こぐま社)  
 「やさいぎらいのガジガジくん」(かがくの絵本) (真本文絵 ぶん、石倉ヒロユキ え 福 音館書店)  
 「きみは、ぼうけんか」(平和をかながえる絵本) (シャフルザード・シャフルジェルディー文、ガザル・ファトゥラヒー絵、愛甲 恵子訳 ブロンズ新社)  
 「なにをたべてきたの?」(大型絵本) (岸田 衿子 文 長野博一 絵 佼成出版社)  
 途中にも手遊びやブックトークをはさみながら、いろいろなジャンルの絵本を4冊読みました。

今回は、30年以上も読み聞かせの活動を続けている「言の葉の森」の佐藤志摩子さんと、松本富美子さんにお話を伺いました。



図書館で借りられます

2人のメンバーで活動  
年に7回の「おはなし会」

平成17年に発足した「言の葉の森」は、図書館を拠点に読み聞かせやおはなし会の活動をしています。メンバーは2人です。新しい市立図書館で年に7回「おはなし会」をしています。今年度は、5月23日に最初の「おはなし会」を開催しました。

リーダーの佐藤さんは約30年、読み聞かせの活動を続けてきました。「本は生きる糧、心の友」と言い切ります。絵本の知識と魅力を深めるためなら、遠方でも足を運ぶ徹底ぶり。旅の内容や関連絵本を「ブックトーク」という形でおはなし会の参加者に披露していました。

3年前に仲間になった松本さんも「本が5冊以上そばにないと落ち着かない」というほどはもちろんのこと、小学生も大人も楽しめる「おはなし会」にしたいという思いがあります。そのため、子どもの興味や反応、対象年齢、保護者など大人の視点も考え、時間をかけて丁寧に絵本を選ぶそうです。リハーサルでは、読み聞かせをする絵本の順番や手遊びの時間など、佐藤さんと松本さんは細かい部分まで話し合います。その結果、5月の「おはなし会」では、平和を考える絵本をプログラムに入れることにしました。

本が人生の友となるよう  
絵本の世界と魅力を体験して

結婚をきっかけに滋賀県に来た佐藤さんは、知り合いもいない中で栗東市の「絵本の読み方講座」を受講したことがきっかけで、おはなし会グループに入りました。わが子に読み聞かせをしながらボランティアも続ける中で、絵本や児童図書の中にはとてもいい作品があると実感したそうです。

佐藤さんと松本さんは、世の中にさまざまな遊びや娯楽がある中で、レトロなおはなし会を選んで会場に足を運んで来てくれる親子や参加者に、存分に

の本好きだそうです。

参加者の反応を想像して  
本選びなど準備を徹底

「言の葉の森」では、本選び・リハーサル・本番と、30〜40分間のおはなし会のために何度も集まって徹底して準備をします。「おはなし会」に来てくれる人たちへ、十分に本を届けるために、そこまでの準備をするのです。

佐藤さんが活動続けてきた30年の間に、社会の様子も絵本や読み聞かせの様子も大きく変わってきました。

赤ちゃんから楽しめる絵本が増えてきましたが、絵本離れの年齢も下がり、以前は小学生まで親子で参加してくれた「おはなし会」の参加者は、乳幼児親子がメインになってきているそうです。

しかし、佐藤さんには「乳幼児楽しんでもらうと工夫を凝らします。「言の葉の森」の「おはなし会」を楽しみにしてくれる常連さんでもきました。

また、佐藤さんは、「言の葉の森」以外のグループにも参加したり、図書館以外でも個人でおはなし会の活動をしています。絵本を通して「あらゆる世界を体験する本の魅力を感じてほしい。子どもの時だけでなく、年齢にかかわらず本が人生の友となるような読み聞かせや、絵本の魅力を伝える活動を細く長く続けていきたい」と話していました。

次回のおはなし会は、9月19日(土)午前11時からです。



本選びやリハーサルで「おはなし会」の準備をする2人